

学びの庭

文責 北 保志

平成二十八年二月号

二百三十二名の卒業生の皆さん、卒業おめでとう！

三年間の中学校生活に幕を閉じ、それぞれの進路に向かって旅立つ二百三十二名の皆さん、卒業おめでとうございます。保護者の皆様、お子様のご卒業を心よりお祝い申し上げます。卒業生の保護者の皆様には三ヶ年にわたり、本校教育に対しまして何かとご理解、ご支援をいただきありがとうございました。

卒業生の皆さんは、最上級生として、学校の中心となり、日々の学習をはじめ、学校行事に部活動に真面目に、そして全力で取り組み、とても素晴らしい成果を上げてくれました。このことは、本校の特徴である、毎朝の落ち着いた雰囲気の中での「朝読書」「わたしのけんこうにつきでの生活チェック」に始まり、給食準備中の読書、終わりの会でのS.T.T.の時間でのドリルによるグループ学習など、日々の活動をまじめに取り組んだ結果だと思えます。

校訓「友愛・自主・活力」のもと、本校で学んだ三年間は、皆さんの心に刻まれ、今後の人生を生き抜くための土台となることを願っています。そして、これからの変化の激しい時代において、国際社会に通用するような「思いやりの心」「郷土・富雄を誇りに思う心」を、一人一人の胸の中に育んでほしいと思います。

十五歳の春、夢をつかむため、精一杯の挑戦

卒業生の進路につきましては、三月一日（火）現在、卒業生二百三十二名の内、四十九名が私立高校へ、二十七名が公立特色選抜・一条推薦選抜など国立公立高校等に進学が確定し、今後、百五十六名が公立一般選抜等を受検します。卒業生の皆さんが、自信と誇りを持ち自分の可能性を信じ、未来に大きく羽ばたいてくれることを期待しています。

一・二年生、節目を大切に、新しい学年に向けて準備を

一・二年生につきましては、三月二十四日（木）修了式で修了証を渡します。修了証は本校での一年間の決められた学習を終えたことを認める証明書です。四月からはそれぞれ二年生・三年生に進級します。三月二十五日（金）～四月五日（火）は春期休業になります。一年間のまとめの時期であると同時に、新しい学年に向けての準備の時期でもあります。

短い期間ですが、それぞれ目標を持って、来る四月六日（水）の始業式を迎えてください。元気で、みんな揃って新学年のスタートを切りましょう。



本年度最後の全校集会を二月二十六日に実施

「富雄を知ろう・奈良を知ろう」シリーズ②として、富雄駅と本校の歴史について話をしました。富雄駅は、一時期、鴉色（とびのむら）駅と呼ばれたことや駅の北側の煉瓦造りの洋館は変電所であったこと、高架工事（昭和四十年）などを紹介しました。本校は、昭和二十二年四月に、富雄北小学校内で、全校生徒百二十七人で開校し、翌年現在地に移転し現在に至っています。その間、昭和五十五年には、全校生徒千六百六十七人で四十クラスと最大規模で、途中、登美ヶ丘・二名・富雄南・富雄第三中学校を分離するなど、開校から、平成二十七年二月までに卒業生が一万九千二十一人いることを紹介しました。また、昔の写真は、本校図書室の「奈良市今昔写真集」「奈良市の昭和」や、富雄公民館「富雄いまむかし写真展」（三月一日～六日）などで紹介されています。

学校評価、ご協力ありがとうございました。

昨年十二月には、学校の自己診断（生徒用・保護者用）にご協力いただきありがとうございました。このたび結果がまとまりましたので、学校より臨時特別号（三月七日発行）でお知らせします。

一部分を紹介しますと、学校生活全般では、どの項目でも肯定的な意見が概ね八十%以上となっています。特に体育大会、文化発表会などの学校行事にはどのクラスも前向きに取り組む、素晴らしい成果を見せてくれました。これは、「学校行事についての活動が楽しく、みんなで行っていました。」という項目で学年が上がるにつれてポイントが高くなっており、上級生が学校行事を楽しみながら頑張っている姿が結果として下級生をリードし、学校全体で楽しくまじめに学校行事に取り組む雰囲気をつくったものと思われれます。また、生徒会活動・部活動についても全学年とも積極的に参加し、日常生活の様々な場面でも楽しく生き生きと主体的に学校生活を送ることができたというところをあらわしています。三年生において、「生徒会活動や部活動に積極的に参加している。」という項目のポイントが若干低いのは二学期で部活動や生徒会活動から引退し、受験に向かって準備している姿のあらわれであると考えられます。

このことは、保護者や地域のご協力の下、学校を含めた三者のバランスのとれた教育が行えた成果が出ているのではないかと考えられます。

学年全体で「大切なもの」「いのちの歌」を合唱。「丁寧に歌いあげられ、曲想もよく表現され、しつとりと歌いあげていて心に染み入りました。」と講評を受け「感動賞」を受賞！



奈良を知ろう・奈良に春をよぶお水取り

東大寺二月堂で毎年二月一日から十四日まで行われる行事が「お水取り」です。

二月堂の御本尊・十一面観音様に悔過（け）かする行で、旧暦の二月に行われることから、正しくは「修二会」といいます。悔過とは仏に人々の過ちを懺悔し、その功德により幸せを祈る法会、奈良時代には各寺院で盛んに行われていました。

十一面観音悔過会は、東大寺の初代別当良弁僧止の高弟であった実忠和尚（じつちゅうかしよう）が、天平勝宝四年（七百五十二）に始まりました。以来、東大寺が兵火に見舞われた年も第二・次世界大戦中（籠もっている練行衆三人が、修二会期間中に兵隊として召集されたこともありました）も、一度も休まずに「不退の行法」として続けられました。

二月二十日から「別火」という前行がはじまります。俗界と火を別にして別火坊で精進生活を始めるのです。参籠する僧侶は練行衆といひ、十一人と決まっています。二月末日には練行衆は別火坊から二月堂の宿所に移動し、三月一日から本業を始めます。毎日のお勤めで、宿所と二月堂を何度か往復をします。午後七時の練行衆の上堂の際に、童子がかつぐ大きな松明が足元を照らします。燃え盛る大松明を欄干でふると、火の粉が舞い散り、参詣者のどよめきが大きくなります。これが「おたいまつ」です。十二日には特に大きな籠松明（かごたいまつ）が出ます。

「水取り」は十二日から十三日にかけての午前二時ごろに行われます。二月堂横にある閻伽井屋（あかいや）に行き、中の若狭井（わかさい）から水をくみ上げ、仏前に供えられます。この水を香水といい、参詣者にも分けられます。内陣での行は十四日に終わります。（『ドラマチック奈良』昔むかしをつぶさに歩く・小倉つき子さん著より引用）

